



青森労災病院 理念 「やさしく、あたたかい病院」

- ・患者さんの権利を尊重し、患者さん中心の医療を行います。
- ・医療の質の向上をめざします。
- ・勤労者医療・地域医療連携等における社会的責任を果たします。



新院長 就任挨拶



院長 玉澤 直樹

このたび須田前院長の後任としてこの4月1日より院長に就任いたしました玉澤直樹と申します。昭和57年に弘前大学医学部を卒業後、同大学の内分泌代謝内科（当時の第3内科）に入局し、糖尿病と脂質代謝異常症を専門とし診療・研究・教育に当たりました。平成25年から2年間は青森市民病院副院長として糖尿病内分泌内科で診療に当り、平成27年4月から当院に着任しました。

八戸地区の基幹病院の一つとして、医療分担の役割を担いつつ、当院の特徴的方針として「生活習慣病」を、院内の各診療科・部門の総合的な連携をもってその診療にあたることとしています。

高齢化が一段と進行する2025年を見据えて、国や県では「地域医療構想」を進めています。生活習慣病は慢性的に進行する病気ではありますが、死亡率の高いがん、心疾患、脳血管疾患に強くかかわっており、緊急性の高い急性期治療が必要な状態に急変する疾患群であります。ますます生活習慣病の管理の重要性は増すと思われれます。

患者さんは皆、「悪くなった時にいつでも・すぐに診てもらえる病院」を希望しています。当院の理念「患者さんに優しく、来てよかったと思える病院」を目指して職員一丸となって専門的で質の高い医療を提供できますよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



須田前院長 退任挨拶

このたび3月末をもって、院長職を退任いたしました。

4年前に当院院長として赴任いたしました。当院に来て感じた事は、医師不足による厳しい医療環境の現実と医療スタッフが内向き思考となり、病院の先行きに対する漠然とした不透明感でした。

そこで病院を再活性化させるための3年計画をたてました。それは①医師不足の解消 ②医療者間の規律やルールの見直し ③今後の当院の進むべき方向性 ④八戸医療圏における3基幹病院間の棲み分けと当院の存在意義を確立するというものでした。

医師不足の改善については一時、少し良くなる傾向がみられましたが、結局は頓挫して、今後県内枠の医師が派遣されるのを待っている状態です。

一方院内的には、規律やルールを見直し、救急対応などもやや改善しました。昨年に当院の特色を生かすべく生活習慣病センターを立ち上げ、当院の八戸医療圏における存在意義と今後の進むべき方向性を示す事ができたのではないかと考えています。

こういう厳しい状況の院長職はかなり精神的スタミナを消費し、モチベーションを維持するエネルギーが枯渇しつつある事を感じましたので、そろそろ潮時と考え、院長を交代し、新陳代謝を図るタイミングと判断しました。幸い機構本部や大学教授会の了解を得て玉澤副院長の院長昇格が決まりました。

私は今後弘前に戻り、一度のんびりして再充電をしたいと思っています。また名誉院長兼顧問ということで、当面週1回火曜日に専門外来をしに弘前から当院に通います。

今後玉澤新院長のもと、当院が上昇傾向に移り発展する事を期待しています。在任中はいろいろとお世話になり有難うございました。

新任 医師・研修医 紹介 H28年4月1日付

◇整形外科

千葉 大輔 副部長

専門医・認定医等：日本整形外科専門医、日本体育協会スポーツドクター
ひとこと：弘前大学医学部附属病院より赴任いたしました。幅広い運動器疾患に対応いたします。よろしくお願いいたします。

◇泌尿器科

三上 穰太郎 医師

ひとこと：弘前大学医学部附属病院より赴任いたしました。4月から泌尿器科で働くことになりました。よろしくお願いいたします。

◇歯科口腔外科

相田 治希 医師

ひとこと：弘前大学医学部附属病院より赴任いたしました。よろしくお願いいたします。

◇臨床研修医

高木 望

ひとこと：本年4月1日より初期臨床研修医として勤務している高木望です。よろしくお願いいたします。

● 放射線治療科からのお知らせ

昨年9月に高精度放射線治療機器（ライナック）が導入されました。

常勤医は3月末を以て不在となりましたが、弘前大学より**毎週火曜日と木曜日**、診療応援による放射線治療を継続しておりますので、引き続き放射線治療を必要とする患者様のご紹介方よろしくお願いいたします。

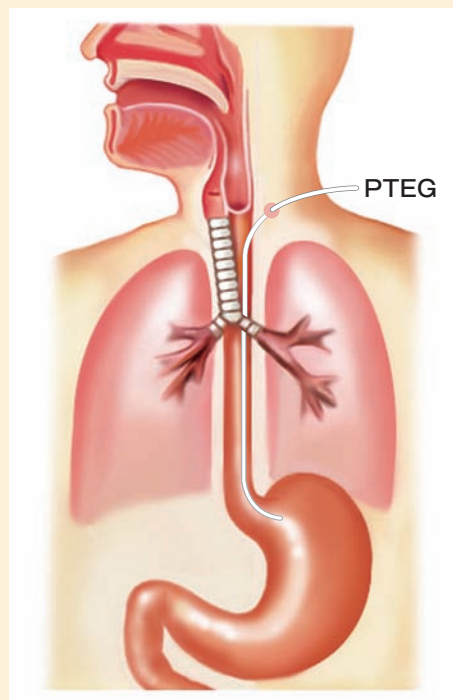
放射線治療科直通電話：0178-33-8078

ピーテグを始めました

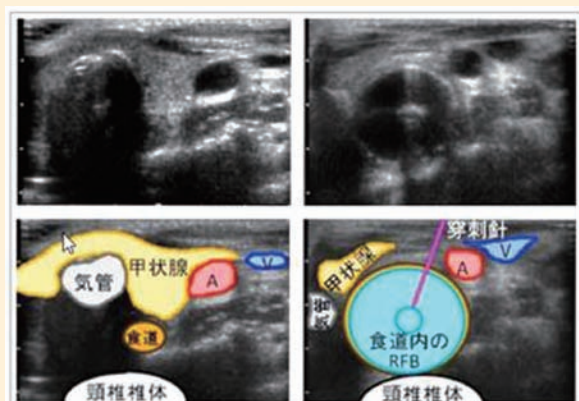
PTEG: Percutaneous Trans Esophageal Gastro tubing

副院長 伊神 勲

PTEG とは、経皮経食道胃管挿入術のことです。鎖骨の上部で首の横からチューブを食道経由で挿入する胃管のことです。これは、通常行われる胃瘻 (PEG: ペグ): 胃内視鏡を使って腹壁と胃壁をチューブで繋ぐ方法の実施が不可能もしくは困難な症例に対して考案・開発された消化管瘻の一つです。一般的に、脳卒中後遺症などでうまく飲み込めない嚥下障害の方、誤嚥性肺炎を繰り返す方々にはペグが行われています。しかし、ペグを行うのが困難な症例には PTEG が行われています。PTEG の適応と考えられる症例は、ペグを行う際に腹壁から胃壁に穴を開けチューブを通しますが、①肝臓や大腸などが介在し胃壁が腹壁から離れている方、②胃切除術後の方、③腹水が貯留している方、④高度進行胃癌症例の方などとなります。



そして、PTEG のメリットとして、内視鏡を用いずに超音波とX線透視下でできること。重篤な合併症が少なく安全で低侵襲であること。術後は特別な処置等を必要としないこと。PTEG が留置されていても嚥下訓練が可能なことなどがあります。さらに、癌性腹膜炎などの麻痺性イレウス例に対する消化管減圧法として用いることができます。すなわち、長期のN-Gチューブの留置を必要としないため、患者さまにやさしい治療法となります。



RFB: Rupture-free Balloon (非破裂型穿孔用バルーン)
A: Carotid Artery (頸動脈) V: Jugular Vein (頸静脈)
図2 左側頸部超音波画像¹⁰⁾



青森労災病院 FAX・電話による診療予約のご案内

当院では、紹介患者さんの待ち時間短縮を目的に、FAX・電話による診療予約を実施しております。

◎専用FAXによる予約方法

予約受付時間：午前8：30～午後9：15（ただし、状況によって対応します。）

予約FAX番号：0178-33-1690（地域医療連携室直通）

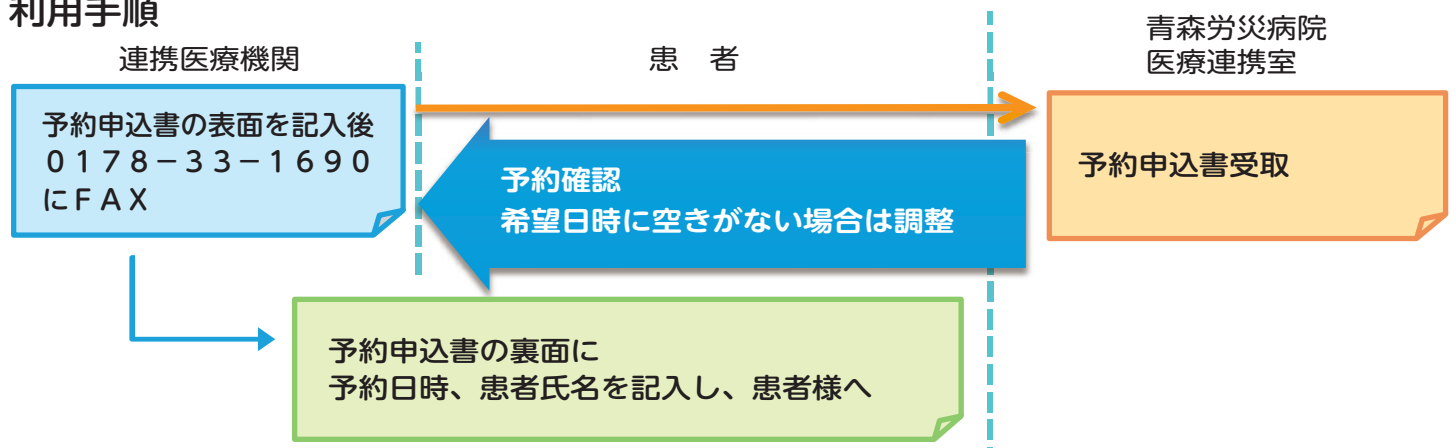
予約申込書：当院ホームページ\各部門のご紹介\地域医療連携室のページからダウンロード可能です。

郵送またはFAXでもお送りしますので、ご希望の際はご連絡ください。

※予約の申込につきましては、診療日前日までとなっております。

当日の予約は出来ませんのでご了承ください。

利用手順

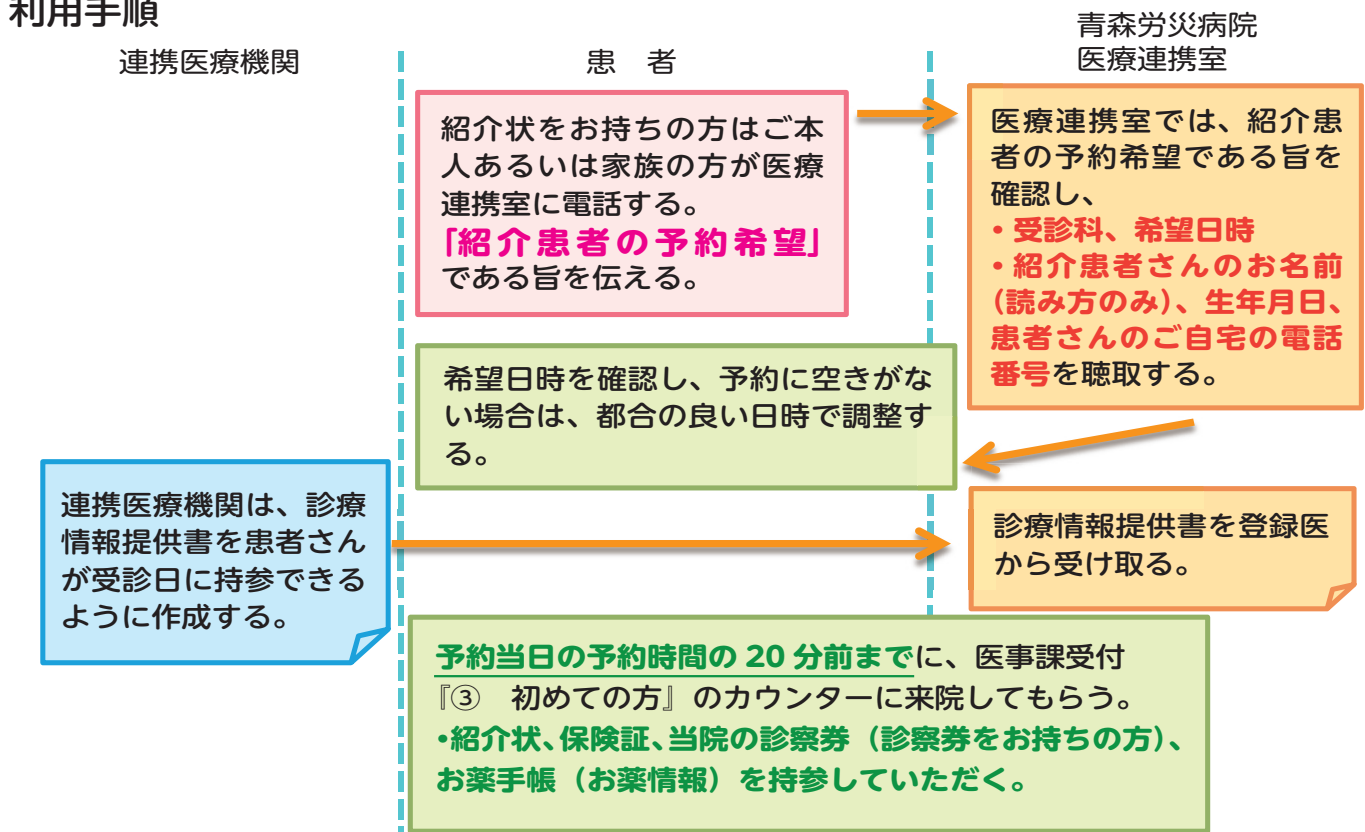


◎電話による予約方法

予約受付時間：平日 午前8：30～午後5：00

予約電話番号：0178-33-1551 内線2515

利用手順



※FAX予約では、事前にカルテ作成を行います。電話予約の場合、当日のカルテ作成となりますので若干お時間を頂きます。

